

横浜市 歴史博物館 NEWS 31 2011・9

- ◆館長就任あいさつ
- ◆館長交代にあたって
- ◆展示報告：特別展「大昔のムラを掘る」／収蔵資料展「寺社参詣・物見遊山」
- ◆夏休み行事報告：体験学習「縄文ホシエツ」 博物館たんけん隊
- ◆企画展「東海道保土ヶ谷宿」によせて
- ◆研究余話「お穴様（鶴見区・駒岡瓢箪山古墳）」
- ◆〈ちよいとミュージアムショップたいむ〉ポストカードと勾玉
- ◆〈知ってますか？〉公益財団法人への移行



館長就任あいさつ

横浜市歴史博物館館長

鈴木 靖民

このたび、高村直助前館長（現、公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団理事長）のあとをうけて館長をお引き受けすることになりました。よろしくお願いします。

私は横浜に住んで三四年目を迎え、横浜を含む神奈川の古代の地域史を研究分野の一つにしてみました。また横浜だけでなく日本全体にかかわる古代史の研究もしておりますので、これまで歴史博物館の展示や講演会などのお手伝いを少ししてきました。したがって、これまで外部の目で博物館の開設以来の展開を見ておりました。

すでにご承知のとおり、博物館は地域社会に関する資料、つまり文化財を収集し、保存し、展示するなどにより、活用するところであり、学芸員は日ごろからそのための調査、研究に従事しております。その公開の対象はまず市民であり、ひいてはより多くの人びとに提供されるべきものであります。

日本社会はいま多くの変革を求められております。横浜市における文化施策、ここに博物館に直接かわる生涯教育、社会教育もその重要な一環であり、指定管理者制度の導入や公益法人への移行にともない、

ふるさと歴史財団とその傘下の諸施設は中期的な事業計画とならんで、なお組織改革を進めているところです。

身近なことでは、これからの博物館はもつと多くの市民が興味を抱き、楽しみにして足を運ぶような組織として、その展示をはじめとする運営を円滑にして欲しいというご意見に答えなければなりません。とくに将来の市民となる児童・生徒が横浜の歴史や文化をよく知り、自分たちのありかたを考える場として期待されており、実際、学校との協力に力を入れています。また地域との連携、市民の参加にも意を用いて、展示以外に、ホールや遺跡公園を利用してコンサート、現代アートなどのイベントを催してきました。

当歴史博物館は横浜市の博物館の中核に位置しますが、原始、古代から近代の入り口までを主に担い、その後の時代を横浜開港資料館、都市発展記念館に委ねております。今年度はすでに事業が進んでいますが、今後、「東海道保土ヶ谷宿」「古代びとの祈り」「弥生時代の漁」「生麦事件」「畠山重忠」「千鶴こき」などの多彩な企画展と関連する講演会などを予定しております。なんと

もご来館いただきたく思います。

三月一日に発生した大地震の、いままも続けられている文化財のレスキューのなかで、建物全体が天津波にのみ込まれて収蔵品が流失し、学芸員もさらわれ、一人だけ助かった岩手県陸前高田市立博物館の主任学芸員が、瓦礫のなかから収蔵品を回収しながら、地域の復興が最優先であるが、街並みが戻っても文化財が残らない復興は真の復興ではない。それは陸前高田のアイデンティティだからと悲痛な叫びをあげているのを知り、文化災害の事実から人間にとつての文化のメカニズムの大切さをあらためて考えさせられました。

博物館は文化財を介した地域の自然、歴史、文化、芸術、そして記憶の集積であり、後世へと伝達するための精神的な拠点でなければなりません。市民が歴史、文化を生活に密着した不可欠な存在として認識し、いつも訪れることのできるインフラとなるように、当歴史博物館も責任を自覚し、これまで以上に努めていく所存です。



館長交代にあたって

前横浜市歴史博物館館長

高村 直助



横浜市歴史博物館が開設されるに際して、その運営に当たる横浜市の歴史財団が発足したのは、今から二〇年近く前の平成四年九月でした。当時、『横浜市史Ⅱ』の代表編集委員を務めていたためだと思いますが、私も理事の一員に加えられました。

記憶にある最初の仕事为建设中の現地視察でしたが、円形の常設展示会場の基礎が出来つつある段階でした。今では、正面の通りを取り囲むように、同じような高さの建物が建ち並んでいます。当時は周りにはほとんど建物がなく、視界の先にセンタ―北駅が聳えるように建っていました。

二〇年近くかかった市史編集と横浜での大学教師の仕事が、ともに終わりがけた頃でした。全く予想していなかったことでしたが、平成七年一月の開館以来、長く館長を務められていた平野邦雄館長から引継ぎを依頼されました。お引き受けしたのは、正直に言って、完全な引退にはまだ少し早いか、長く続いた横浜との御縁がなくなるのも寂しいなという、全く自己本位の気持ちからでした。

平成一六年四月に館長に就任しましたが、すぐに、そんな安易な気持ちではやっ

て行けないことが分かりました。市が設置した施設が本当に市民に役立っているかどうか、具体的・直接的に問われる時代に入ってきていたのです。まず、市との間に数年を限って達成目標を決め、結果によって財団の存否を決する「特定協約」制度が始まり、次いで、当財団に限定せず運営者を公募する「指定管理者」制度が適用されることになりました。公募に手を挙げる企業が実際に現われ、審査を受ける期間は大変長く感じられました。さらには一時、財政上の理由から施設の名前を売りに出す「ネーミング・ライツ」制度が実施され、肝を冷やしたこともありました。

当館は前館長時代、横浜に関わる資料を広く収集・保管・分析し、それを前提として横浜の歴史の姿を人々の生活を中心に提示してきており、それは全国的にも高く評価されてきました。私は、このような当館の展示を分かりやすくより多くの方に見ていただき、そして関連事業にも積極的に参加していただくという、いわば欲張った方針を掲げ、館員の工夫と努力を求めています。

開館記念の「感謝デー」で多くの来館者が楽しんでおられるのを見て喜び、期待していた企画展の意外な不入りに落ち込むといったことを繰り返してきた年月であったように思います。その間、多くの方のご支援のおかげにより、何とか大過なく役目を果たしてこれたとすれば、それは厳しさを増す条件のなかで館員一同が支えてくれた結果です。

本年四月、横浜市ふるさと歴史財団は当博物館の第二期五年間の指定管理者になり、また六月には公益財団法人への移行を実現しましたが、これを機に館長を交代することになりました。

七月、國學院大学教授鈴木靖民氏が第三代の館長に就任しました。鈴木氏は東アジアという広い視野から日本古代史を究めてこられた著名な歴史研究者であり、テレビなどでおなじみの方も多いのではないかと思います。「質の高いものをより多くの人に」という課題を引き継いでいただける最適の方だと信じます。七年余にわたる市民のご支援に深く感謝いたしますとともに、新館長にどうか前任者にならぬご支援を御願ひ申し上げます。

「大昔のムラを掘る―三殿台遺跡発掘50年」を振り返って

今年四月九日（土）から五月二九日（日）

まで開催された特別展「大昔のムラを掘る」は、昨年の企画展「考古学ってなに？」が考古学全般を扱っていたのとは対照的に、三殿台遺跡という一つの遺跡に絞った展示となりました。主に三殿台考古館に保管されていた資料は、整理作業から時間が経過していることもあつて必ずしも良好な状態ではなかったため、三殿台考古館と歴史博物館において修復作業を進めました。当初は展示室が埋まるのかという不安もあったのですが、アルバイトやボランティアの皆さんの尽力により、かなりの量の資料が並ぶことになりました。

今日も当時のことをよく覚えておられ、聞き取りや原稿の依頼にも快く応じてくださいました。また地元の方からも貴重な証言をいただくことができました。

今回の特別展のポスターは、発掘時に撮影されたセピア色の集合写真を使用しました。展示室ではこれを含めた4枚の集合写真を掲示して、わかる限り名前を入れておきました。が、当時を知る人には懐かしいコーナーとなつたようです。また、実はこれが狙いでもあつたのですが、お客様から追加や訂正などの情報をいただいたり、当時の話をうかがうことができました。改めて多くの人々が三殿台遺跡の調査に関わっていたのだということを感じた次第です。

今回の展示はこのように三殿台遺跡から出土した「物」を並べるだけでなく、発掘調査に関わった「人」にも焦点をあてた構成とし、調査時の写真や映像、日誌なども展示しました。発掘に参加した皆さんは五〇年が経過し

今回の展示作業にあたっては、先に対象とする住居を選定して準備を進めたため、資料全体から見ればごく一部を扱ったに過ぎません。三殿台考古館では現在も過去の出土資料の再整理作業が進められています。今回の特別展がこれから行われる三殿台遺跡の再評価の契機となることを願っています。



通常のフロアレクチャー（展示解説）のほか、ゴールデンウィーク中にはより手短でわかりやすい親子向けフロアレクチャーを実施しました。



5月4日には遺跡公園で大塚・蔵勝土遺跡開園15年と三殿台遺跡発掘50年を記念したフェスタを行い、野焼きや弓矢体験などにのべ1200人以上の参加がありました。

（高橋健）

報告

「寺社参詣・物見遊山―横浜・神奈川の名所」

二〇一一年六月一日（土）～七月一〇日

（日）の一ヶ月間、収蔵資料展「寺社参詣・物見遊山―横浜・神奈川の名所」を開催しました。

当館では昨年度、「東海道と江戸時代の旅」と題したテーマ展（二〇一〇年十一月三日（土）～二八日（日））を行いました。今回の収蔵資料展は、そのテーマ展で紹介しきれなかった、個々の名所に関する資料を公開する目的で企画した、いわば旅の収蔵展第二弾といった位置づけの展示でした。

内容が、大きく三部構成とし、第一部では、金沢八景・鎌倉・江の島・大山・箱根などの名所の風景を、浮世絵や絵図、地誌などを中心に紹介しました。第二部では、はじめ鎌倉と関係が深かった金沢八景が、一九世紀に江戸とのつながりを持つていく様子などを、先行研究などにもとづいて絵図などで示し、移り変わる名所の姿を概観しました。第三部では、道中日記と、そこに記されている宿泊・休憩地一覧の表や地図をあわせて展示し、当時の名所をめぐる旅の具体例を示しました。その他、各名所の現代の観光マップを展示室と図書閲覧室に設置し、どなたでも閲覧・コピーができるようにしました。

毎年この時期に多数来館いただいている小学校の団体見学者が、今年減少したこともあり、企画展入場者数は五五三六六人（目標八五〇〇人）にとどまりました。しかし、講演会やウォーキングなどの関連事業は、目標を上回る参加者数となりました。

今後は、入場者数を増加させる方法を検討し、より多くの市民の皆様に、当館の資料と、その収集活動を知っていただくための努力を続けていきたいと思っています。

（小林紀子）



フロアレクチャーは会期中3回行いました。写真は、金沢八景を描いた屏風の前での解説の様子。



関連事業のウォーキング（ふるさと横浜探検）では、金沢八景をめぐる旅。写真は八景のひとつ「称名晩鐘（しょうみょうばんしょう）」の舞台、称名寺の鐘楼にて。

体験学習「縄文ポシエット作り」



「二本越え、二本もぐり、一本ずらし」で側面を編んでいます。



完成形。おやつや小物入れにも使えますし、ペットボトルや水筒を入れてもびったりです。

博物館では、地域の歴史を少しでも身近に感じていただけるよう、大塚・蔵勝土遺跡公園内の工房で、毎年春・夏・秋・冬に体験学習を実施しています。今回はその中から、「縄文ポシエット作り」を紹介いたします。

「縄文ポシエット」は、青森県の三内丸山遺跡から発見されたかこの通称です。横浜市内では、縄文時代のかごは残念ながら見つかりませんが、お隣の川崎市では、多摩川沿いの遺跡からかこの一部が見つかっています。そこで、当館でもかご作りの体験学習を実施しようということになったのです。

以前から「縄文ポシエット作り」の体験学習を行っている石川県埋蔵文化財センターで職員が研修を受け、初めて博物館で実施したのは二〇〇五年。博物館の開館一〇周年記念「博物館まつり」の時でした。そこで大好評だったため、夏休みの体験学習として、毎年一回行うことになりました。

今年の実施日は八月二日。小学生から大人まで、幅広くご参加いただきました。縄文時代のかごは、本来植物で編まれています。体験学習では、かわりに紙バンドを使います。編み方は、「網代編み」と呼ばれる、平らな素材を交差させる編み方です。博物館ではその中でも、「縄文ポシエット」と同じ、「二本越え、二本もぐり、一本ずらし」のパターンで編んでいきます。慣れるまでは少し難しくても、一度コツをつかんでしまえば、どんどんと編み進められるようになります。最後には、皆様笑顔で、完成したポシエットにさっそく荷物を入れてお帰りになりました。

いろいろな使い方ができて、夏休みの宿題にもなる「縄文ポシエット作り」。来年の夏、ぜひ挑戦してみてください。

（小林紀子）

夏休み行事報告

夏休み博物館たんけん隊



中をのぞいてみよう。民俗収蔵庫の扉を開けて。



赤外線テレビカメラで見えない文字を見てみよう。

夏休みの八月の日曜日、今年も「夏休み博物館たんけん隊」を実施しました。「博物館の裏側はどうなっているの？」「どんなものが置いてあるの？」、そういった疑問にお答えするのが「たんけん隊」です。

参加希望者は博物館二階の研修室に集まってもらいます。受付をすませると、博物館オリジナルの「たんけん隊缶バッジ」をお渡しします。これが隊員のしるしです。「たんけん」の手順を説明した後、まずは常設展示室に行き、器具を使って部屋明るさを測ります。暗い場所と明るい場所、どうして区別があるのかを考えてもらいます。ユニークな答えを出してくれる参加者もいます。次いで企画展示室へ。開催中の展覧会の「見どころ」を確認してもらいます。そして、いよいよ裏側の「たんけん」です。

裏側へ入ると、まずは資料を運ぶための大きなエレベーターです。エレベーターの扉が開くと、「わー！大きい！」との声があがります。ゆれることなく、ゆつくりと進むエレベーターに乗り、六階の民俗収蔵庫へ。大型金庫のような扉の前で、収蔵庫の機能と安定した環境の話をします。収蔵庫の扉を開け、電灯をつけると、「へー！すごい！」「人力車がある！」と参加者は興奮気味です。次に一階のトラックヤードへ向かいます。電動リフトの昇降を体験してもらい、資料消毒のための燻蒸室のぞきまします。そして、博物館の特別な機械、赤外線テレビカメラをみてもらいます。見えない墨書きの文字が画面に浮かび上がると、子どもたちはビックリします。聞々までの「たんけん」ではありませんが、参加した方々にはご満足いただけたようです。来年も引き続き「たんけん隊」を行っていく予定です。お楽しみに。

（平野卓治）

企画展

「東海道保土ヶ谷宿」によせて



近代都市・横浜の直接の起点である安政
六年（一八五九）の横浜開港からすでに
一五〇年―一世紀半の時間を経て、横浜市

域の歴史に関する考え方も少しずつ変化し
てきているように思われます。一五〇年と
いう時間帯は、一世代を三〇年間とすれば、
おおむね五世代に当たる
わけで、幾つもの時
間や時代の層の積み重
ねとして理解していく
必要があるでしょうか。
そして、そうしたこと
を時間軸の観点から比
較していく素材の一つ
として、江戸時代の横
浜市域の歴史があり、
今から四一〇年前の慶
長六年（一六〇一）に
成立した東海道とその
宿場は、そのなかでも
重要な要素ということ
になります。

していました。今回の企画展「東海道保土ヶ
谷宿」では、その三宿のなかでも中央に位
置し、かつ横浜市域を通る東海道のルート
全体のほぼ真ん中に位置する保土ヶ谷宿を
対象としています。

保土ヶ谷宿の成立は、東海道の成立と同
時で、同宿唯一の本陣（参勤交代の大名が
休んだり宿泊したりする施設）であった軽
部本陣家には、その根拠となる、慶長六年
正月付の徳川家康伝馬朱印状が残されてい
ます。この資料は、東海道の宿場として、
保土ヶ谷宿が公用の伝馬を負担するように
指示した内容で、慶長六年に成立した各宿
場へ出されましたが、神奈川県域では保
土ヶ谷宿のみに現存しているものです。

公用の荷物の運搬をまかなうため馬百疋
と人足百人を常備している東海道の宿場
は、その負担を確保するため複数の町で構
成されていることが多いのですが、保土ヶ
谷宿も保土ヶ谷町・岩間町・神戸町・帷子
町という四つの町からなっており、東海道
の両側にほぼ同じ間口で家々が立ち並び、
東海道に沿って横に長い街並を形成してい
ます。また、宿場の形状は、軽部本陣の前
でほぼ直角に屈曲し、東（江戸・神奈川）
側と西（京都・戸塚）側へと直線状に道が
伸びるという特徴的なものとなっていま

す。こうした形は、元禄三年（一六九〇）
に刊行された「東海道分間絵図」におい
て、保土ヶ谷宿が「新町」と記述されて
いるように、一七世紀半ば頃に道筋・河川
の改修と人家の移転を伴い人工的に整備さ
れたものです。なお、それ以前の保土ヶ谷
宿周辺の東海道のルートについては、根拠
となるだけの文献・絵図がなく、はっきり
したことはわかりません。

保土ヶ谷宿は、東海道の宿場であるだ
けでなく、それ以外にもさまざまな要素を
もっています。神奈川湊（横浜港の前身と
もいえるべき湊で、現在の横浜駅付近を船
の停泊地とする）の荷揚げ場であった帷
子川河口の河岸もその一つで、宝永四年
（一七〇七）の富士山の噴火に伴う降灰が
帷子川に流入した結果、河床が浅くなり河
岸としての適性が劣化してしまい、その賑
わいは東隣の芝生村に移っていきま
すが、帷子川に沿って伸びる道筋は、横浜港への
シルクロードの前身になるものです。また、
東海道から分かれて、金沢・浦賀へ向かう
金沢道（浦賀道）の分岐点である金沢横丁
には、現在も道標四基が残されており、江
戸から杉田梅林・金沢八景・鎌倉・江の島
といった経路での小旅行に向かう人々を想
像することができます。

（斉藤 司）



歌川広重 東海道五拾三次之内 保土ヶ谷

研究余話

お穴様

去る八月三日(土)・二日(日)に、常設展示室にてミニ展示「お穴様・瓢箪山古墳関係刷り物」を開催しました。

お穴様・瓢箪山古墳とは、鶴見区の駒岡四丁目付近にかつて存在した横穴墓と古墳です。今から百年余り昔の明治四〇年(一九〇七)の四月に、瓢箪山と呼ばれる丘の斜面で岩の掘削作業中に、一基の横穴が発見され、内部から人骨のほか装身具や武器、馬具などの副葬品が出土しました。地元では「貴人の御墓」として大騒ぎとなり、強い霊異をもつ「お穴様」として参詣人が地元ばかりでなく東京からも詰めかけるようになり、やがて「蟻の熊野詣で」ならぬ「蟻のお穴様詣で」と呼ばれるような現象さえ引き起こしました(この大騒動の顛末については、桜井準也「2009『明治期における遺跡と民衆 横浜市鶴見区岩瀬山横穴群(お穴様)をめぐる』」『横浜市歴史博物館紀要』



御穴様第二回発掘物略図(明治41年10月19日)

御穴様第二回発掘物略図(明治41年10月19日)のみの同年十月一九日の発行で、cとdの間、明治四一年の十月七日から一〇日にかけて、当時の日本考古学界の第一人者であった東京帝国大学の坪井正五郎教授らに招いて「お穴様」の発掘調査が行われています。刷り物に図示されている遺物は、a・cが明治四〇年の四月の出土品、それに対しdは「第二回発掘物」の題名の通り、

13 参照。

当館で収蔵している刷り物(印刷物)はこの「お穴様」騒動の渦中で制作されたもので、次の四点を所蔵しています。

- a. 御岩窟様神宝(図)附縁起之事
明治四一年九月八日 横浜市西戸部町高橋善吉編集・発行
- b. 御穴様及宝物略図
明治四一年九月二日 横浜市元町四丁目 瀧徳三郎発行・画作・印刷
- c. 瓢箪山全景
明治四一年九月二日 東京市芝区南佐久間町二丁目 敬神社栗原昌治発行・印刷
- d. 御穴様第二回発掘物略図
明治四一年十月一九日 横浜市石川仲町小川吉蔵編集、横浜市元町4丁目 瀧徳三郎発行・画作・印刷

明治四一年十月の坪井による調査の成果をふまえたもので、図示されている遺物も他の三点に記載のものとは異なります。数種類の刷り物が、横浜だけでなく東京でも刊行されていることは、「お穴様」の関心の広まりをうかがわせます。

ミニ展示の準備過程で資料調査を進めるうち、現在東京大学の社会情報研究資料センターに保管されている坪井正五郎の遺品の中に、絵葉書をはじめ、お穴様・瓢箪山の発掘に関わるものが数点現存することがわかりました。

「諸人種風習談(其二)」と題された雑誌の抜き取り記事は、「お穴様」に関する坪井の口述を記録したもので、掲載誌のタイトルが不明なものの、調査主導者自身による口述は信頼性も高く、興味深い内容をもっています。たとえば当館の刷り物や当時の新聞などに「お穴様」から人骨の出土していることが記されていますが、坪井によると、歯を調べたところ老人と若者の2体分であることがわかったといっています。このほか発掘調査の経緯や出土品についても言及されており、今後当時の新聞などと付き合わせつつ検討してゆく必要があります。

当館で所蔵する四種類のほか、「鶴見区史」に「瓢箪山御穴様図解」と題する明治四一年一月刊行の刷り物の写真が掲載されていますが、今回東大の坪井関係資料の中に実物を確認することができ、写真にない裏面にも、詳細な情報がびっしり記載されていることがわかりました。

「お穴様」関係の刷り物は、他にも制作されている可能性があります。ご存じの方は博物館まで情報をお寄せいただければ幸いです。

(柳沼千枝)

ちよいとミュージアムショップたいむ Museum Shop Time

ポストカードと勾玉

今夏の企画展「風景を伝える、持ち帰る 絵はがきあれこれ」に関連し、ポストカードに新しい仲間を入荷しました。横浜市立図書館と市内企業のコラボレーションにより商品化されたこの「平山煙火製造所昼花火絵入型録」は、とても個性的でデザイン性の高いものばかりです。花火と言えば、夜空に輝く色とりどりの大輪が夏の風物ですが、様々なしかけの「昼花火」とい



天然石勾玉 1コ682円
ペンダント・ストラップ各840円
ポストカード 1枚126円 8枚セット1,680円

うものをご存知でしょうか。このポストカードを見ながら、今から二〇〇年以上も前の人々が楽しんだ「花火」に思いを馳せてみませんか。

さて、手に届くところでも輝く逸品がショップには存在します。天然石の「勾玉」です。色彩豊富な天然石、涼しげな物から重厚な雰囲気のものまで多種にわたり取り揃えております。石の内に秘められた神秘の力を身近に感じingは如何? オリジナルの手作りネックレスやストラップも販売しています。

?????? 知ってますか ??????

公益財団法人への移行

平成20年、これまでの法人制度が変わり、財団法人は一般財団法人となるか公益財団法人へ移行するかの選択を迫られることになりました。公益財団法人は、「学術、技芸、慈善その他の公益に関する事業であって、不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与する」とされる公益的事業を行う法人で、公益性が認定され、税制面でも優遇措置がとられます。公益法人となるには、公益認定の申請を行い、行政庁（内閣総理大臣もしくは都道府県知事）からの認定許可が必要となります。歴史博物館などを管理・運営する財団法人横浜市ふるさと歴史財団は、昨年度から公益認定の申請を行ってきました。その結果、本年5月に認定許可を受け、6月1日に「公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団」へと移行しました。公益財団法人という名称は、公益性が高く、信頼できる法人という印象を与えます。それをそこわないう、横浜市ふるさと歴史財団は今後も博物館の活動を充実させていきます。

これからの催しもの

- ◎企画展「東海道保土ヶ谷宿」
10月1日(土)～11月23日(水・祝)
- ◎「館蔵 市指定文化財展・横浜の遺跡展－弥生時代後期の横浜－」
12月10日(土)～2012年1月9日(月・祝)
- ◎企画展「火の神・生命の神－古代のカマド信仰をさぐる」(仮称)
2012年1月21日(土)～3月20日(火・祝)

表紙写真は

体験学習室のミニ展示「ちょっと昔を探してみよう」では、家族が団らんを過ごした昭和40年(1965)頃の4畳半の居間を再現しています。大人は懐かしさを感じますが、現在の子どもたちにとっては初めて見るものばかり。今年も小学3年生が初めて歴史を学習する時期に合わせ、12月から3月に展示します。

訂正

30号の表紙写真説明(8頁)に誤りがありましたので、訂正します。
(誤) 磯子小学校岡村分校→(正) 滝頭小学校岡村分校

横浜市歴史博物館 日誌

二〇一一年一月一日～九月三〇日

- 1月9日 横浜の遺跡展講演会「横浜市北部と周辺地域の弥生時代中期集落群」
- 1月9日 平成22年度横浜市指定・登録文化財展「横浜の遺跡展」フロアレクチャー
- 1月13日 「古文書解説教室・上級編」(2月10日まで全5回)
- 1月15日 収蔵資料ミニ展示「記念煙草に見る昭和の世相」(1月23日まで)
- 1月22-23日 体験学習「紙すき」
- 1月22日 ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【中世】」
- 1月23日 収蔵資料ミニ展示解説
- 1月29日 企画展「ウズマキからわけの謎を解く」(3月21日まで)
- 1月29日 企画展関連「茅ヶ崎城発掘写真展」(3月21日まで)
- 1月29-30日 企画展関連フロアレクチャー
- 2月5日 企画展関連「茅ヶ崎城跡見学と企画展示解説ミニツアー」
- 2月6日 開館16周年記念特別講演会「関東と関西－生活文化の東と西」
- 2月10日 企画展関連バスツアー①「伊勢原市・大山阿夫利神社と太田道灌の古蹟をめぐる」
- 2月11日 収蔵資料ミニ展示「縄文時代前期末の土器」(2月20日まで)
- 2月13日 体験学習「土器づくり教室」(3月19日まで全4回)
- 2月19日 企画展関連講演会②「関東から研究の現在：都筑区茅ヶ崎城・伊勢原市丸山城を皮切りに」
- 2月20日 収蔵資料ミニ展示解説／体験学習「縄文の仮面づくり」
- 2月26日 企画展関連「茅ヶ崎城跡見学と企画展示解説ミニツアー」
- 3月5日 ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【近世】」
- 3月11日 企画展関連フロアレクチャー
- 3月12日 東日本大震災発生 以降臨時休館
- 3月13日 臨時休館
- 3月15-19日 企画展関連バスツアー②「室町期の陣所「上戸の跡」跡・河越館と川越城をめぐる」(中止)
- 3月17日 野焼き(中止)
- 3月19日 収蔵資料ミニ展示解説
- 3月21日 ふるさと横浜探検「国史跡八王子城を訪ねて」(中止)
- 3月24日 ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【近現代】」
- 3月26日 体験学習室ミニ展示「私たちが作った縄文土器展」(4月5日まで)(中止)
- 4月1日 特別展「大昔のムラを掘る－三股台遺跡発掘50年」開催(5月29日まで)
- 4月9日 特別展関連イベント「体験学習「大むかし土器を作ろう」
- 4月16-17日 特別展関連散歩「三股台遺跡周辺を歩く」
- 4月21日 特別展関連フロアレクチャー
- 4月24日 ふるさと横浜探検「よこはま事始め 山手・根岸・本牧の開港期の史跡を訪ねて」
- 4月28日 特別展関連親子向けフロアレクチャー
- 4月29日 ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【原始】」「火起こし体験」
- 5月1-3・4・5・7・8日 特別展関連親子向けフロアレクチャー
- 5月4日 特別展関連・第10回「国際博物館の日」企画「大塚・歳勝土遺跡公園開館15周年・三股台遺跡発掘50周年記念フェスタ 遺跡公園で古代体験」
- 5月19日 ふるさと横浜探検2 特別展関連バスツアー「国史跡登呂遺跡と登呂博物館を訪ねて」
- 5月21-22日 体験学習「まがたまづくり」
- 5月22日 特別展関連フロアレクチャー
- 5月28日 ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【原始II】」「火起こし体験」
- 6月11日 収蔵資料展「寺社参詣・物見遊山－横浜・神奈川の名所」(7月10日まで)
- 6月18-19日 体験学習「江戸時代の旅」(7月15日まで)
- 6月19日 体験学習「小田原ようちん」
- 6月19日 収蔵資料展関連フロアレクチャー
- 6月25日 ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【古代】」「火起こし体験」
- 6月26日 収蔵資料展関連講演会「近世神奈川の名所とその変遷」
- 6月30日 ふるさと横浜探検3 収蔵資料展関連「金沢・六浦周辺の名所地を歩く」
- 7月3日 収蔵資料展関連フロアレクチャー
- 7月9日 収蔵資料ミニ展示「鶴見区瀬田村荒井家文書」(7月18日まで)
- 7月10日 第20回エントランスホールコンサート「天までとどけ星に願いを－フルートとハーブの調べ」
- 7月16日 収蔵資料展関連フロアレクチャー
- 7月18日 体験学習室ミニ展示「ちょっと昔を探してみよう」(9月30日まで)
- 7月18日 収蔵資料ミニ展示解説
- 7月23日 企画展「風景を伝える、持ち帰る 絵はがきあれこれ」(9月11日まで)
- 7月28-29日 体験学習「土偶づくり」
- 7月30日 ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【中世】」
- 7月31日 企画展関連フロアレクチャー
- 8月2日 体験学習「縄文ボシットづくり」
- 8月4-5日 体験学習「そのもの(万祝染)」
- 8月7日 企画展関連「絵でがみ教室」
- 8月13日 夏休み博物館たんけん隊
- 8月13日 収蔵資料ミニ展示「お穴様(鶴見区・駒岡諏訪山古墳)関係副物」(8月21日まで)
- 8月14日 企画展関連フロアレクチャー
- 8月14日 夏休み博物館たんけん隊
- 8月18-19日 体験学習「まがたまづくり」
- 8月20日 土偶等野焼き
- 8月21日 企画展関連「絵でがみ教室」／収蔵資料ミニ展示解説
- 8月27日 夏休み博物館たんけん隊
- 8月28日 ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【近世】」
- 8月28日 夏休み博物館たんけん隊
- 9月4日 夏休み特別企画「チボリ兄弟舎紙芝居」
- 9月10日 企画展関連「絵でがみ教室」
- 9月10日 収蔵資料ミニ展示「緑区北門古墳群出土の円筒埴輪」(9月19日まで)
- 9月11日 企画展関連フロアレクチャー
- 9月17-18日 登呂住居に泊まるぞ!
- 9月24日 ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【近現代】」

編集後記

ひとときを酷暑を感じた夏でした。公益財団法人化、新館長就任と目まぐるしく状況が変化しました。秋からは今一度博物館の使命を胸に、歴博らしい展示を予定しています。まずは関連事業も満載の「東海道と保土ヶ宿」をお楽しみ下さい。(f)

横浜市歴史博物館および大塚・歳勝土遺跡公園の利用案内

●開館時間

午前9時から午後5時まで(ただし、入館は午後4時30分まで)
大塚遺跡、都筑民家園を除く公園部分は24時間オープン

●休館日

歴史博物館・大塚遺跡
月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始
そのほか展示替えなどのため、臨時に休館することがあります。

●常設展観覧料

区分	個人	団体 (20人以上1人につき)
一般	400円	320円
高校生・大学生	200円	160円
小学生・中学生	100円	80円

◆特別展・企画展の観覧料は、別に定めます。

◆毎週土曜日は、小・中・高校生は無料です。

◆「演ともカード」「敬老特別乗車証」「愛の手帳(療育手帳)」「身体障害者手帳」「障害者手帳」をお持ちの方は無料です。

●交通案内

横浜市営地下鉄「センター北駅」下車徒歩5分
(「センター北駅」へは横浜駅から23分 新横浜駅から12分)



駐車場あり(1時間200円)

●インターネットホームページ <http://www.rekihaku.city.yokohama.jp/>

